

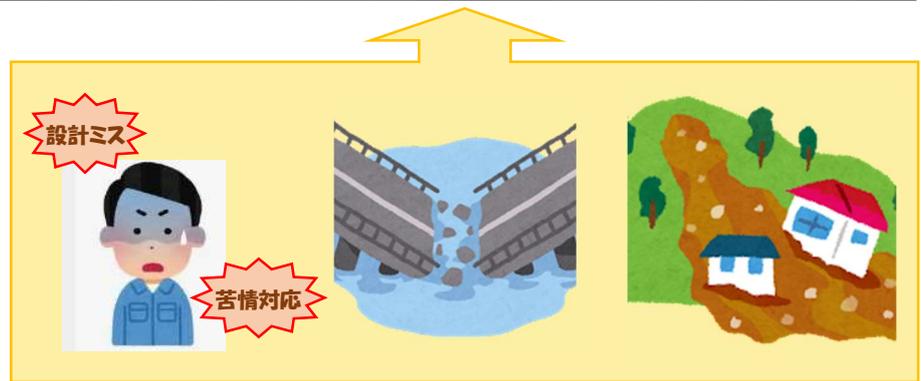
建設産業で輝く人材を育てるために

建設ケースメソッドのすすめ

「建設マネジメント力」育成の新技术



修羅場体験が
建設マネジメント力を育む

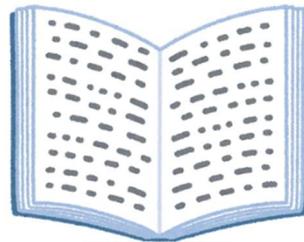


建設ケースメソッドは、災害対応や、建設生産プロセスで生じたトラブルなど、実際に起った対応が困難な非日常的な事態(修羅場)を記録した臨場感のある物語(ケース)を読み込んで疑似体験すると共に他の人の考えを知ることにより建設マネジメント力を育成する取り組みです。

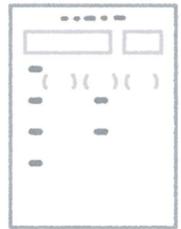
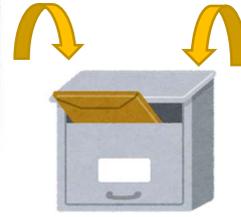
建設ケースメソッドを用いた研修の流れ

研修生へ資料送付

ケース(修羅場の物語)
事前設問
受講の心得 等



ケース



事前設問

事前準備

ケースの読み込み
事前設問への回答・提出

どう考え、決断し、行動するか？
主人公の立場で修羅場を疑似体験



研修本番

グループ討議
全体討議 (講師が先導)



グループ討議



全体討議

自分の考えを発表・他者の考えを聞く
→ 自分の考えをフラッシュアップ

研修を終えて・・・

新たな気付き
建設マネジメント力の涵養



ケースメソッドは、現実に生じる各種の問題に対し対応力、思考力、判断力等を養う手法として、ビジネスの世界では既に広く取り入れられている手法です。建設ケースメソッドは、これを建設分野に適用するものです。

導入が始まった建設ケースメソッド

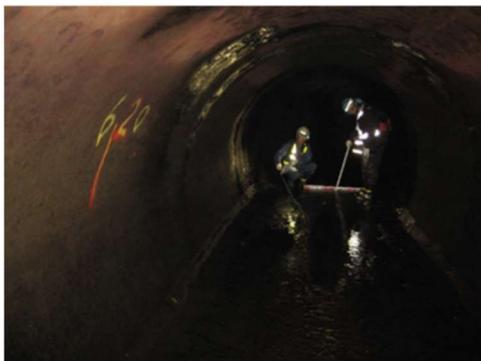
■ ケースについて

ケースは、実際に起こった修羅場(トラブルや災害対応など)を臨場感のある物語に仕立てたものです。修羅場の多くは先例や規則がないもの、一方を立てれば一方がたたないジレンマを抱えたものです。

タイトル：安全管理と利潤確保の狭間で

ケースのあらすじ：水力発電ダムの導水トンネルの補修工事。現場所長の山中は現場確認で施工の安全確保には仮設照明の設置が必要であることに気付いた。しかし、仮設照明は当初の施工計画には計上されておらず、設置すると大幅に予算を超過することが判明。発注者に伺いを立てても「これのできるから入札したんでしょ？」と設計変更は認められず、上司は「慈善事業ではない、赤字はダメだ」とにべもない。山中所長は対応を迫られることになった。

授業での設問の例：あなたが山中所長の立場なら、仮設照明の設置についてどう判断し、どのよう
に行動しますか？それはなぜですか？



ヘッドランプのみ



仮設照明あり

上記はケースの一例(概要)です。

既に建設ケースメソッドを導入された機関・会社では、それぞれに適したケースを制作し、講師の育成を進めておられます。

■ 建設ケースメソッドによる研修を実施している機関・会社の例

- 国土交通省(地方整備局、北海道開発局、国土交通大学校)
- 建設会社(熊谷組 等)、コンサルタント会社(長大 等)
- 学校等(福井工業高等専門学校 等)

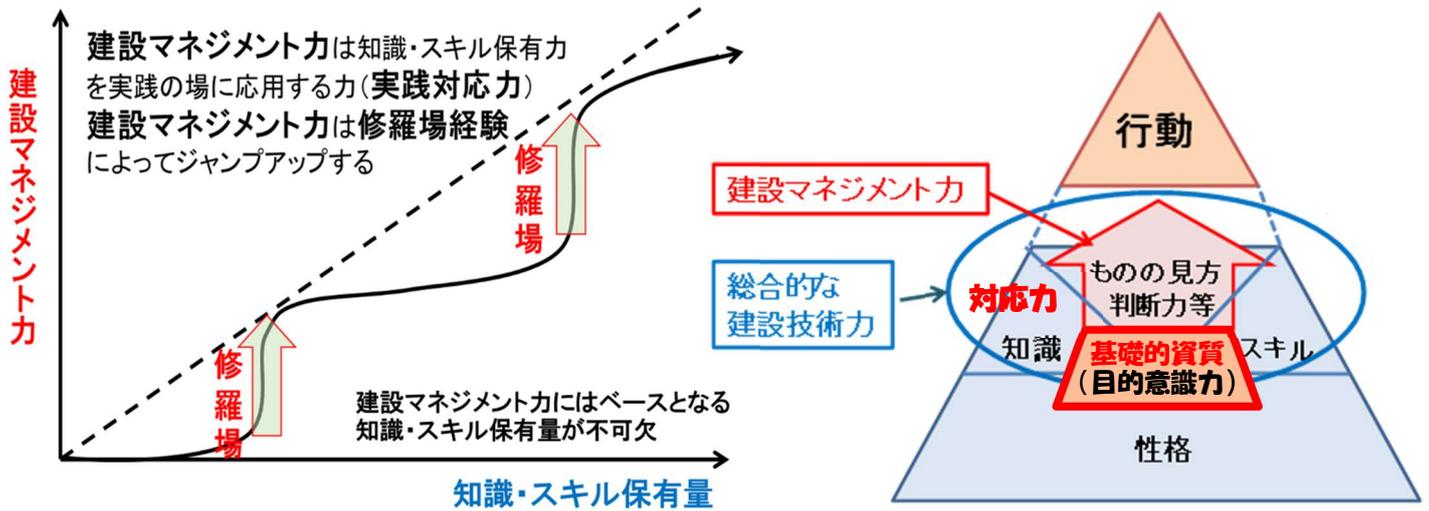
研修生・参観者の感想 (模擬授業アンケートより)

- 建前だけでない、教科書の解答でない対処を考えることができ、とても良かったと思います。
- 結論を求めないやり方でしたが、ある結論に対して、違う立場での結論への向かい方を共有することで、色々な考えを学べると思いました。
- この研修を取り入れたいと考える企業はたくさんあると思います。
- ぜひ今回の研修の様子を土木学会誌や、他のメディアで紹介すべきと思います。
- 社内研修への適用を検討したいと思います。
- 今まで受けた研修の中で、一番良い研修でした。

建設マネジメント力の育成について

建設マネジメント力とは保有している知識やスキルを実践の場に応用する力であり、建設生産プロセスのあらゆる局面で求められる「決断力」「行動力」などの能力です。

これらは個人の生まれ持った性格や基礎的な資質に根ざしつつ、「修羅場の経験によって飛躍的に高まる」という仮定の下に、その育成には修羅場を疑似体験させる「ケースメソッド手法」が効果的であると考えました。



建設マネジメント力研究小委員会資料より

建設ケースメソッド普及小委員会がお手伝いします

土木学会建設マネジメント委員会建設ケースメソッド普及小委員会では、建設分野に相応しいケースメソッド手法の開発・普及に取り組んでいます。

◎ 模擬授業

「建設ケースメソッド」を多くの方に知っていただき、その普及を図るため、毎年秋に「模擬授業」を開催し、多くの機関・会社の皆さまに研修生あるいは参観者としてご参加いただいています。

➡ 研修生の派遣、参観等のご検討を

参観は現地のほか、WEBでも実施しています。

◎ 各機関・会社での建設ケースメソッドの導入の支援

小委員会がご相談に乗り、必要に応じ導入時のお手伝いをさせていただきます。

■ 問合せ先

土木学会建設マネジメント委員会建設ケースメソッド普及小委員会
E-mail: kenmane-method@ml-jsce.or.jp